

# 稲・大豆作情報 (NO. 4)

## 1. 水稲作況情報田の生育概況 (7月21日現在)

品 種 場 所	移植日 栽植株数	年 次	現在の生育状況				概況
			草 丈 c m	茎 数 本/m <sup>2</sup>	主 稈 出葉数	葉 色 SPAD	
夢しずく 佐賀市本庄町	6/17 18.5株/m <sup>2</sup>	本 年	69.3	345	10.4	38.8	7月3半旬は高温・少雨・低日照、4半旬は多雨・低日照で経過している。
		平 年	61.6	355	10.3	40.4	
		平年比	(113)	(97)	(0.1)	(-1.6)	
さがびより 小城市芦刈町	6/20 16.7株/m <sup>2</sup>	本 年	56.0	365	9.8	39.4	◇平年と比べ、 草丈：すべての品種とも高い。 茎数：すべての品種で少ない。 主稈出葉数：「夢しずく」「ヒヨクモチ」は平年並み、「さがびより」は平年より遅れている。 葉色：すべての品種とも淡い。
		平 年	54.8	459	10.5	40.9	
		平年比	(102)	(79)	(-0.7)	(-1.5)	
ヒヨクモチ 小城市牛津町	6/28 19.6株/m <sup>2</sup>	本 年	40.5	313	9.7	40.7	
		平 年 平	35.4	401	9.8	42.2	
		年 比	(114)	(78)	(-0.1)	(-1.5)	

注1) 各品種 前作：麦 注2) 施肥及び病害虫防除は地区基準に準ずる

注2) 平年値は、過去10年間(H24~R3)の平均値

### ◆農業試験研究センター米づくり情報4号 7月22日(抜粋)

移植日	項目 品種	年 次	草 丈 cm	茎 数 本/m <sup>2</sup>	葉 齢 L	葉 色 SPAD	概 況 (平年と比較して)
6月17日	夢しずく	本 年	65.9	310	10.8	41.3	【気象】7月15日~21日まで ◆平均気温…平年より0.3℃低い ◆日照時間…短い(平年比 44%) ◆降水量…多い(平年比 252%) 【生育】 ◆草丈 「夢しずく」「さがびより」「ヒヨクモチ」で高い、「ヒノヒカリ」でやや高い。 ◆茎数 「夢しずく」「ヒノヒカリ」「さがびより」では少ない、「ヒヨクモチ」ではやや多い。 ◆葉齢 「夢しずく」ではやや遅んでおり、他の品種では平年並みである。 ◆葉色 「夢しずく」では遅く、「ヒノヒカリ」「ヒヨクモチ」ではやや遅く、「さがびより」では平年並みである。
		平 年	58.9	416	10.3	38.8	
		平年比(差)	112	75	+0.5	+2.5	
	ヒノヒカリ	本 年	55.9	454	10.4	43.3	
平 年		54.0	563	10.5	41.2		
平年比(差)		104	81	-0.1	+2.1		
6月20日	さがびより	本 年	56.7	415	10.4	41.9	
		平 年	50.2	528	10.5	41.6	
		平年比(差)	113	79	-0.1	+0.3	
	ヒヨクモチ	本 年	54.8	829	10.9	45.4	
平 年		47.8	816	11.0	43.1		
平年比(差)		115	102	-0.1	+2.3		
留意点	○「夢しずく」は間もなく幼穂形成期(農試平年7/28)を迎えるため、それまでに中干しを終える。穂肥は穂肥診断に基づき適正に施用する。 ○「ヒノヒカリ」「さがびより」「ヒヨクモチ」等の中晩生品種は中干しを実施する。中干し終了後は間断灌水に移行する。						

注1) 耕起概要等は前号参照。

### ○生育概況

「夢しずく」の生育はやや進んでいる。「さがびより」、「ヒヨクモチ」は平年並みの生育である。

7月4半旬の降雨と低日照で、いずれの品種も平年より茎数が少ない。

麦ワラ腐熟によるガス湧きや、スクミリンゴガイの食害で分けつが抑制されている圃場が散見される。

## 2. 水稲管理

引き続き、有効茎数に応じた管理を徹底し、生育量・有効茎の確保に努める。  
6月中旬移植の「夢しずく」は、まもなく幼穂形成期を迎えるので、穂肥診断に従い、遅れないように穂肥を施用する。

### ○水管理 ～ 浅水・間断 適正な水管理を ～

- ・有効茎が確保できていない圃場

→ 浅水管理で、分けつを促す。

**深水厳禁！**

- ・有効茎が確保できている圃場

→ 中干しを開始する(目安は右表を参考)。

中干しは、軽い亀裂が入り足跡がわずかに

つく程度まで行うが、天候・風速により期間は異なるため、随時確認しながら行う。

品種	目標 穂数 本/㎡	有効茎数(中干し時期)	
		50株/坪 (15.2本/㎡)	60株/坪 (18.2本/㎡)
夢しずく	360	24本/株	20本/株
さがびより	370	25本/株	21本/株
ヒヨクモチ	440	29本/株	24本/株

### ○除草剤 ～取りこぼし雑草に注意～

- ・雑草の生育(葉齢)に注意し、中後期除草剤による早めの対策を講じる。

対象	除草剤名	使用時期	備考
ヒエ類	クリンチャー 1 ㌔粒剤	移植後7日～ℓ I 4L 但し、収穫30日前まで	湛水散布(3～4日は湛水)
	クリンチャー EW	移植後20日～ℓ I 6L 但し、収穫30日前まで	落水散布。展着剤加用。
	ヒエクリーン 1 ㌔粒剤	移植後15日～ℓ I 4L 但し、収穫45日前まで	湛水散布(3～4日は湛水)
広葉雑草	バサグラン粒剤	移植後15日～55日 但し収穫60日前まで	落水～ごく浅く湛水散布。 最低3日間入落水しない。
	バサグラン液剤	移植後15日～55日 但し収穫50日前まで	高温条件下では、薬害が生じやすいので夕方散布。
ヒエ類および広葉雑草	クリンチャーバス ME 液剤	移植後15日～ℓ I 5L 但し収穫50日前まで	落水～ごく浅く湛水散布。 最低3日間入落水しない。 高温条件下では、薬害が生じやすいので夕方散布。(展着剤無加用)
	ハイカット 1 ㌔粒剤	移植後15日～ℓ I 3.5L 但し、収穫60日前まで	湛水散布(3～4日は湛水)
	フォローアップ 1 ㌔粒剤	移植後15日～ℓ I 5L (稲4葉期以降) 但し、収穫60日前まで	湛水散布(3～5日は湛水)
	ワイドアタック SC	移植後20日～ℓ I 6L 但し、収穫30日前まで	落水～ごく浅く湛水散布。(展着剤無加用)

## ○夢しずく

- ・穂肥施用時は湛水し、その後の間断湛水では、地固めと根に空気を送るため落水期間を長めにとる。

### 【平坦部での夢しずく穂肥診断基準】

幼穂形成始期の草丈	葉 色		施用時期		穂肥施用量	
	群落	葉緑素計	出穂前	幼穂長	N成分 kg/10a	BB602 kg/10a
73cm以下	3.0以下	34以下	20~22日	1mm	2.0	12.5
	3.0~3.5	34~38	18~20日	2mm	1.5	9.4
	3.6以上	39以上	施用しない			
73~79cm	3.0~3.5	34~38	18~20日	2mm	1.0	6.3
	3.6以上	39以上	施用しない			
80cm以上	施用しない					

※草丈は、幼穂の伸長程度により幼穂形成期（1mm）を基点に、前後1日あたり1cm増減する。

※出穂前15日以降の穂肥は、玄米タンパク値を上昇させるので施用しない。

## ○病害虫情報(発生および防除)

- ・今年の特イロウンカは、現在のところ6/25、7/8、7/19の飛来が確認されている。
- ・農業技術防除センターより7/21に発信された発生予測図は右図のとおり。なおこの発生予測図は、随時更新されるため、以下に示すホームページで最新情報を確認ください。

### 暫定防除時期（7/22 現在）

1回目 7/23~8/4

2回目 8/7~8/16

もしくは

1回目 8/7~8/16

2回目 8/21~9/3

※移植が早い早生品種地帯では、必ず現地での発生状況を確認し、6/25飛来の第二世代幼虫中心に防除を行う。

※8月中旬以降に防除を行う場合は、稲株が開帳しているため、株もとへ薬剤が飛散しにくくなる。  
圃場に湛水し、ウンカ類を株もとから上に移動させるとともに、株もとまで薬剤が十分に届くよう留意する。

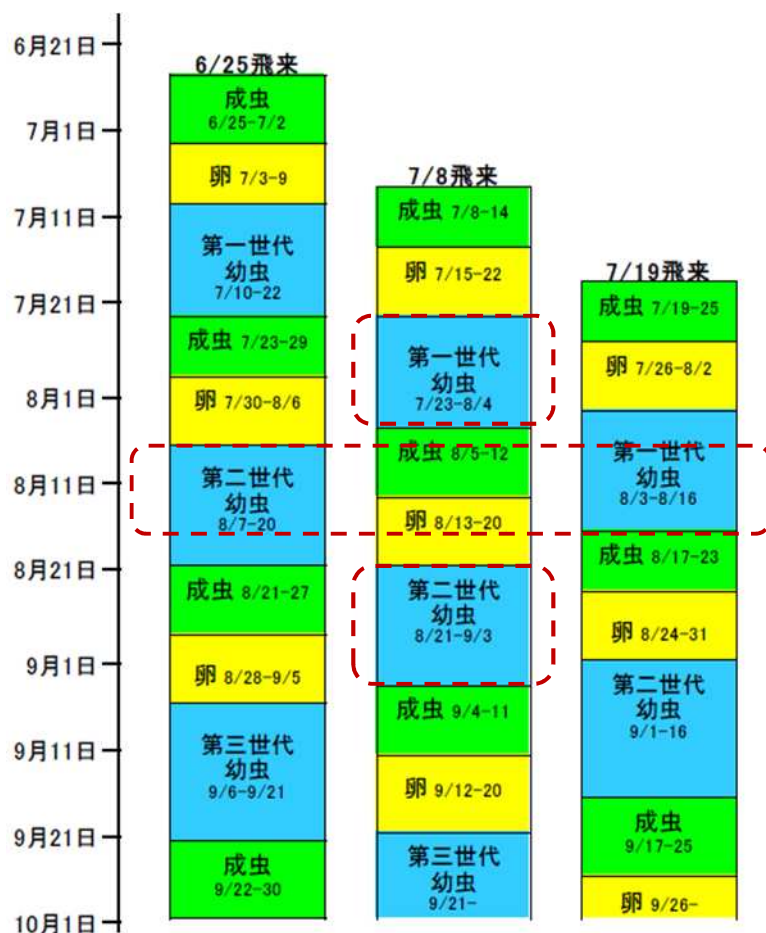


図1 トビイロウンカ各世代の発生予測（第3版、2022年7月20日作成）

今年、植え付け時期などで、地域によって、飛来波の定着状況が異なる可能性があるため、必ず現場での発生状況を確認し、防除時期を判断する。

農技防 HP 参照：病害虫情報

<http://www.pref.saga.lg.jp/kiji00368010/index.html>

### 3. 大豆管理 ～ 生育に応じた管理を ～

6月末から7月中旬と播種期間が幅広く、圃場ごとに様々な生育となっている。  
生育に応じた適正管理を行う。

#### ○生育状況

- 6月下旬～7月初旬播種 本葉1～4枚  
7月上中旬播種 出芽期～本葉1葉  
※同じ播種時期でも、土壤水分の有無や降雨の有無で生育は異なる。

本年は、播種後の降雨で、出芽揃いがよい圃場が多い。しかし、平播などでは、出芽はしているものの排水性が劣る圃場が見受けられる。

大豆は、水分も必要とするが、湿害には弱いため、排水路の整備などを行い、豪雨等にも対処できるようにしておく。

#### ○播種・再播種

まだ播種されていない、または再播種される圃場では土壤水分、天気を考慮した播種を行う。既に土壤が乾燥している場合は、降雨後や入水により一定の土壤水分とした後に播種する。

##### ・播種量

時期	栽植本数 ㎡あたり	栽植様式 条間×株間×1株本数	播種量 (kg/10a)	施肥
7月21日～25日	18本 20本	75×15×2 3条播き 20×2	5.0～6.0	BB480を40kg/10a (窒素成分 5kg/10a)
7月26日～	27本	75×11×2	8.0	生育量確保のため行う

##### ・播種深度

土壤水分が高い場合や播種後2～3日以内に降雨が予想される時→2cm程度の浅め 鎮圧しない  
播種後に晴天が続く場合は、4～5cm前後の深めにして鎮圧をおこなう。

💡 順調な出芽となるよう土壤水分の確保ができる作業体系も検討を！

播種後、晴天が続く予報の場合、夜間の播種 → 早朝の鎮圧 などできる限り土壤水分の蒸散を抑制し、出芽までの土壤水分の確保を行う。

##### ・除草剤

畦畔及び本田への散布で、周辺水稻ヘドリフト・薬害事例が散見されている。

播種前・播種後の散布作業は、周辺の作物への影響を十分に考慮して行う。

除草剤の散布は、風が弱い日が多い早朝が望ましい。ただ早朝でも風がある日は散布を避ける。

#### ○培土

- 出芽した大豆は、以下の目安を参考に、雑草防除や生育確保のため、1回目の培土を実施する。

#### ○実施時期の目安

- 1回目：本葉2～3枚の頃、子葉が隠れる程度におこなう。
- 2回目：本葉4～5枚時に、初生葉（子葉の上の葉）まで隠れるようにおこなう。



1回目の培土時期の目安



# 令和4年産水稻生育期間気象グラフ（アメダス：佐賀）

佐城農業振興センター

